

米国 製造業部門モメンタムの緩やかな低下傾向に変化なし (06年7月ISM製造業景気指数)

発表日：2006年8月1日（火）

～在庫・受注比率が低下しておりISM製造業景気指数の8月の低下を示唆～

 第一生命経済研究所 経済調査部
 桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

 (03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

ISM (the Institute for Supply Management) の推移

	総合	生産	雇用	在庫	入荷遅延	新規受注	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
05/07	56.4	60.5	53.2	47.9	52.3	60.0	49.0	48.5	55.8	54.7
05/08	53.5	55.9	52.9	46.1	50.6	55.8	50.5	62.5	54.5	53.4
05/09	58.0	61.7	53.1	49.0	58.6	60.7	55.0	78.0	57.3	53.4
05/10	58.1	60.8	54.9	48.4	60.8	59.9	55.5	84.0	55.2	58.2
05/11	57.3	60.2	56.0	49.3	56.9	58.5	53.0	74.0	57.9	54.1
05/12	55.6	57.8	53.6	47.3	52.9	59.1	49.5	63.0	54.3	52.8
06/01	54.8	56.6	51.3	46.5	55.3	58.0	53.5	65.0	58.5	57.0
06/02	56.7	57.4	55.0	49.6	52.2	61.9	54.5	62.5	57.0	57.5
06/03	55.2	57.5	52.5	48.7	53.1	58.4	59.5	66.5	57.3	57.0
06/04	57.3	60.4	55.8	51.3	57.7	57.6	57.0	71.5	53.4	59.0
06/05	54.4	57.2	52.9	48.0	57.6	53.7	53.0	77.0	55.7	56.5
06/06	53.8	55.1	48.7	46.9	55.0	57.9	54.0	76.5	55.4	56.5
06/07	54.7	57.6	50.7	50.5	55.4	56.1	50.5	78.5	51.9	57.5

54.7と前月比0.9 ポイント上昇し市場 予想を上回った

06年7月のISM製造業景気指数は、54.7と市場予想の53.5への低下に反し、前月から0.9ポイント上昇した。指数を構成する5項目の前月からの変化では、新規受注が低下した一方、雇用、生産、在庫、入荷遅延が上昇した。拡大した業種数は20業種中12業種（前月14業種）に減少した。ISM製造業景気指数は、国内需要の堅調と世界的な需要の拡大を背景に高い水準を維持しており、製造業部門の堅調持続を示している。7月26日に公表されたベージュブックで既に製造業部門の堅調が持続していたことが報告されたが、それと整合性のある結果となった。FOMCが予想している家計部門の減速とそれを企業部門がある程度下支えする構図が続いていることが確認された。

新規受注が低下するなかで在庫が増加したことから、ISM製造業景気指数に1、2ヵ月先行する新規受注・在庫比率が大幅に低下しており、ISM製造業景気指数は8月に低下する可能性が高い。その後も、需要が鈍化する中、製造業部門のモメンタムは緩やかなペースで鈍化傾向を辿ると予想される。

製造業受注・生産統 計の鈍化傾向持続を 示唆

個別にみると、生産指数は前月から2.5ポイント上昇したものの（39ヵ月連続で50を上回った）、拡大した業種数は9業種（前月12業種）に減少した。また、2月をピークに水準が切り下がっていることから、製造業生産（FRBベース）は9月にかけて3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で拡大ペースが鈍化すると予想される。

新規受注指数は39ヵ月連続で拡大縮小の分岐点である50を上回ったものの、前月から1.8ポイント低下した。加えて、拡大した業種数が9業種（前月14業種）と大幅に減少しており、製造業受注（商務省ベース）の拡大ペースは9月にかけて3ヵ月前対比年率で鈍化傾向を辿ると予想される。

製造業では在庫抑制姿勢を維持

在庫面では、在庫指数が50.5と前月から3.6ポイント上昇し3ヵ月ぶりに50を上回った。しかし、在庫を増やした業種数は20業種中4業種（前月7業種）と減少しており、在庫指数の上昇は一部業種での増加だったと判断される。

新規受注と同時に在庫が増加する前向きな在庫拡大が3業種（前月6業種）にとどまっていること、新規受注が増加したなかで在庫が減少している業種が6業種（前月7業種）と多いことから、製造業は前向きな在庫の積み増しを抑制しており在庫抑制姿勢を維持していると判断される。

一方、新規受注が減少する下で、在庫が増加する悪い在庫増となった業種は1業種（前月1業種）にとどまっており、製造業での在庫過剰感はほとんどないとみられる。

貿易赤字は高水準持続

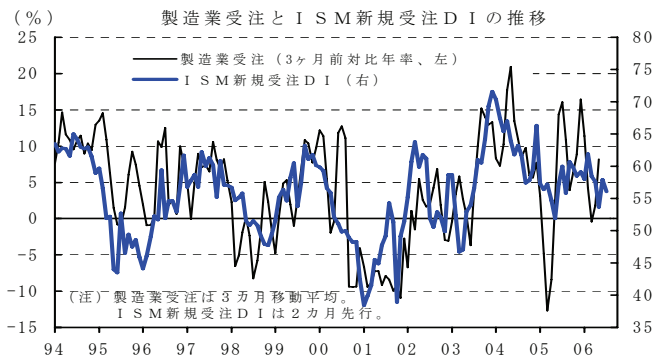
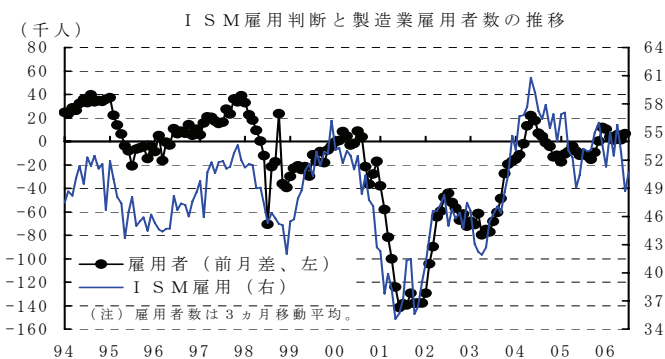
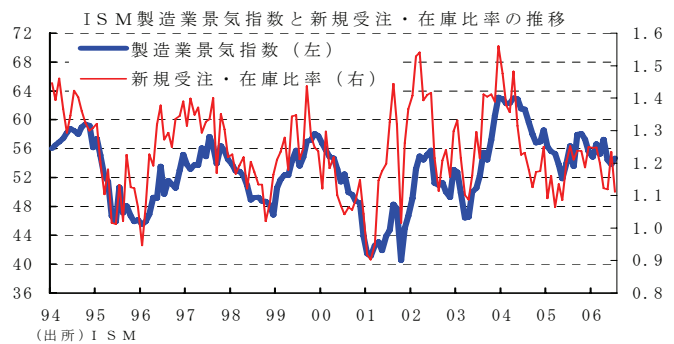
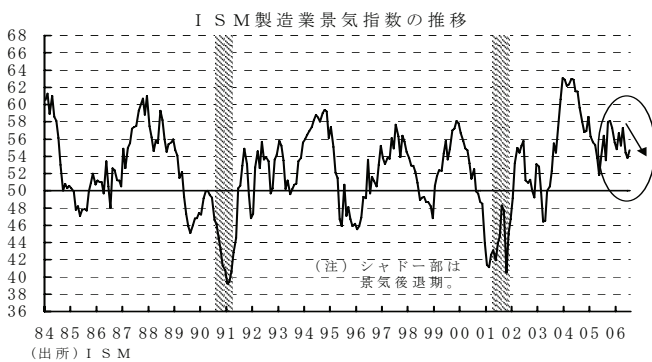
外需関連では、輸出受注は51.9と前月の55.4から大幅に低下した。通関統計に3ヵ月先行する3ヵ月移動平均では3月をピークに低下していることから、輸出（通関ベース）は6月以降伸びが鈍化しよう。一方、輸入指数は57.5と前月の56.5から小幅プラスとなり、高い水準を維持した。このため、通関ベースでの輸入の増加ペース加速を示唆していることから、貿易赤字額は高水準で推移する可能性が高い。

製造業雇用は減少に転じる可能性

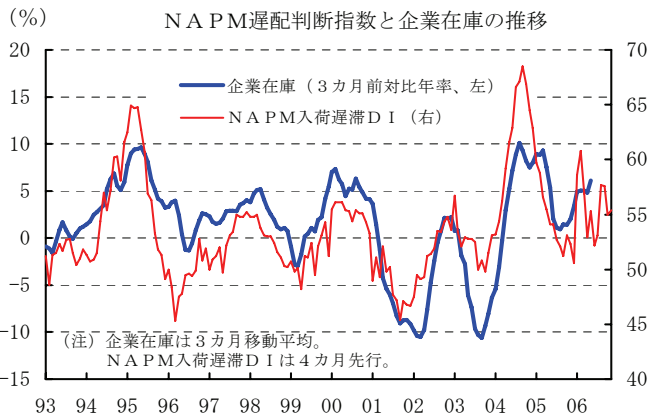
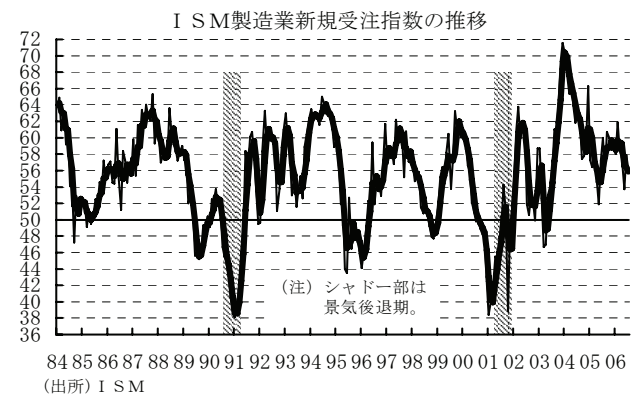
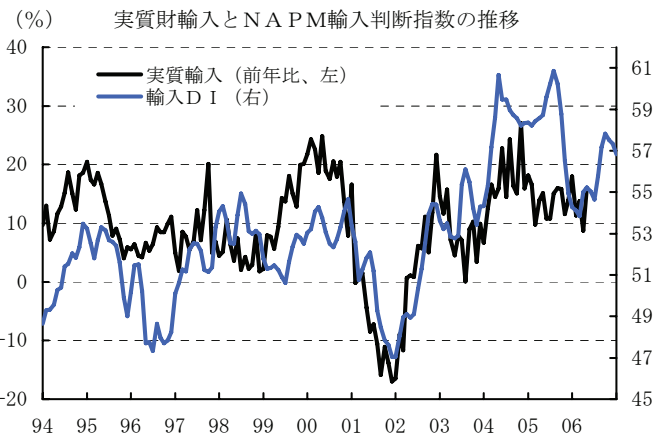
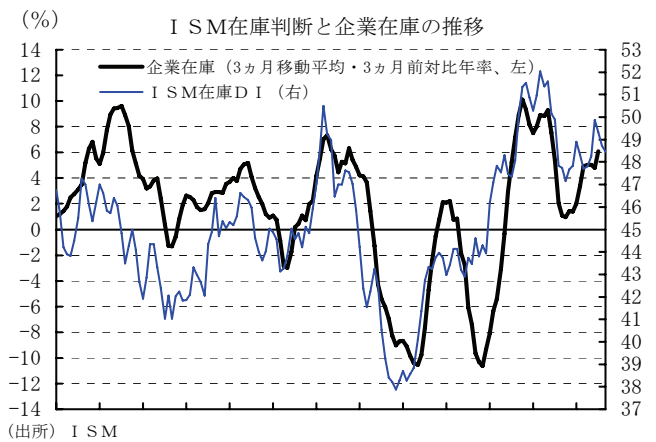
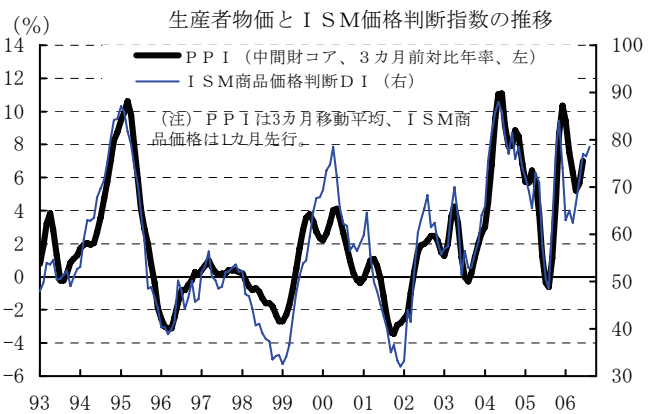
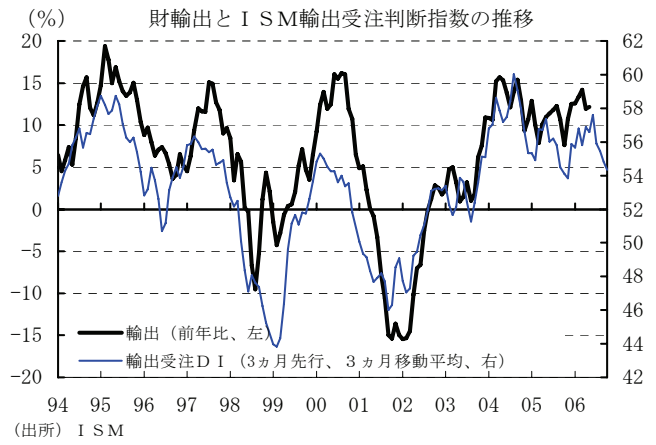
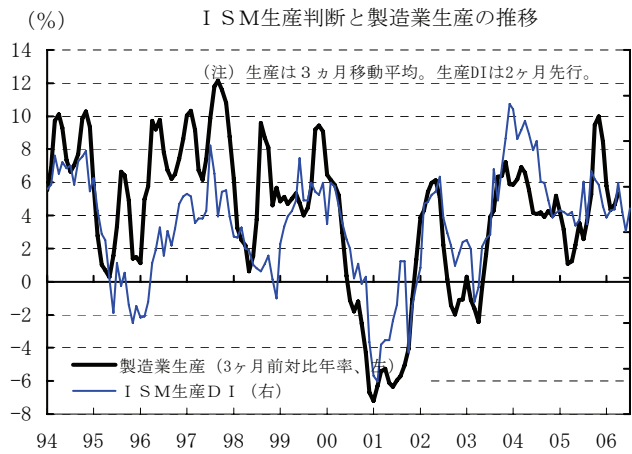
雇用関連では、雇用指数が50.7（前月48.7）と再び50を上回ったものの、増加した業種が7業種と前月の11業種から減少したこと、最近50前後では雇用統計の製造業雇用者数（3ヵ月移動平均）は減少することが多いことから、製造業雇用者数は7月に減少する可能性が高い。

川中での物価上昇圧力が一段と強まる公算

物価面では、商品価格指数（仕入れ価格）は78.5と商品価格やエネルギー価格の上昇によって前月から上昇し高い水準を維持している。このため、商品価格指数に遅れて動く傾向があるPPI（中間財コア）は7月に3ヵ月前対比年率で一段と伸び率が加速する可能性が高い。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であると限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。